

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 池田 正起

主査 教授 清水 宏
審査担当者 副査 教授 大場 雄介
副査 教授 佐邊 壽孝
副査 教授 山本 有平

学 位 論 文 題 名

ケロイド線維芽細胞に対する肺線維症治療薬ピルフェニドンの作用とその機序
(The effect and mechanism of action of pirfenidone in keloid-derived fibroblasts)

学位審査において申請者は以下の内容について発表した。ケロイド線維芽細胞 (KFs) に対する肺線維症治療薬ピルフェニドン (PFD) の作用と作用機序を検証することを目標として研究を行った。PFD は KFs に対して細胞増殖抑制作用, α -SMA 発現と 1 型コラーゲン産生に対する抑制作用, TGF- β 1 添加時の核内 pSmad3 発現を低下させることを証明した。これは世界で初めての試みであった。また PFD がケロイド治療に有用である可能性と解決を要する問題点などについて論じた。

質疑応答についての概要は以下の如くであった。

佐邊教授から、上皮細胞に対する PFD の作用、ケロイドとサイトカインの関係性、ケロイド患者の遺伝子研究の現況について質問があった。大場教授から、正常皮膚線維芽細胞と KFs における pSmad3 発現の違い、Smad3 発現の評価、検体ごとの個体差、線維芽細胞の経時的変化について質問があった。清水教授から、初代培養に使用したケロイドの部位、ケロイド患者の健常部との比較、特発性肺線維症とケロイドの合併例への PFD の使用例の有無、実験手法について質問があった。山本教授から、他の臓器や治療薬との比較について質問があった。

申請者は自験例と過去の文献を引用し回答した。

この論文は、これまで内容を発表した国内の学会で高く評価され、ケロイドの治療法開発に関する基礎および臨床研究に有用な新知見を付与するものと期待される。審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。